

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.097

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお ● 56年生まれ。新党日本代表、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選、'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選、1期務める。【公式ブログ】www.nippon-dream.com/

パリ9区リユ・モンマルトルのル・ブイヨン・シャルティエは、滞在時に決まって僕が足を運ぶ食堂。創業1896年明治29年。鴨のコンフィのポテト添え、キャベツの酢漬けシチュークルトとソーセージ、仔牛の頭の煮込み、数多くの「日常食」が品書きに並び、大箱のプラスチックです。アル・ヌーヴォーな趣を漂わす歴史的建造物の店内を取り仕切る、何れも「ギャルソン」と呼ぶに相応しき円熟の給仕人は注文を、紙製のテーブルクロスに暗号の如

き文字で書き殴ると、瞬く内に厨房から運んできます。シャルティエの躍動感に、これぞパリのエスプリと誰もが魅了されるでしょう。而も驚く程に安価で美味。その時空へ御案内下さったのは、今は亡きクラフィック・デザイナ1の堀内誠一さんでした。平凡出版IIマガジンハウスが「先駆者IIヴァンガード」たり得ていた往時に「an・an」「POPEYE」「BRUTUS」の題字を考案した彼は、谷川俊太郎氏と「マザー・グースのうた」を手掛けた絵本作

家でもありました。まみちゃんの家へ犬や猫と一緒に誕生日のお祝いに向かう「たろうのおでかけ」は、その色合いと描写が素敵で、幼少の頃に大好きだった一冊です。停学・留年を契機に僕が書いた「なんとなく、クリスタル」は1980年10月に文藝賞を受賞し、翌年1月に上梓された単行本は100万部を超える予期せぬ展開に。卒業前の3月、「an・an」編集部の淀川美代子嬢と共に十数頁の特集「田中康夫のパリ」取材で赴き、在住していた堀内さんと邂逅。

彼と2人で出掛けたのでした。最寄り駅はメトロ9号線のグラン・ブールヴァール。以前は通り名のリユ・モンマルトルが駅名。観光名所のモンマルトルの丘と勘違いする「お上りさん」が続出し、1998年に改名しています。因みにシャルティエの真向かいには僕も幾度か訪れた伝説のル・パラス。ミック・ジャガー、アンディ・ウオーホル、イヴ・サンローラン、カール・ラガーフェルド、更には政治家のフランソワ・ミットランや哲学者のロラン・バルトも集った夜の社交場です。閑話休題。「中目黒」の路地で営まれるオー・コアン・ドウ・フーは、シャルティエよりも遙かに小振りなビストロ。が、凡百のレストランを遙かに凌駕する分量の料理は優れて「仏蘭西」を感じさせます。定食は午餐が2100円と3000円、晚餐は5000円と6800円。満腹を超えた満足を保証。が、出来れば、品書きに記された膨大な品目の中から自分で前菜と主菜を選択すべき。別けても、仔羊のクスクス・ロワイアルは白眉です。骨付き仔羊が2本載ったクスクスに加えて、野菜やスネ肉が満載のココット鍋も供されて3000円。2人でも食べきれぬ程の分量。良い意味で「中目黒」らしからぬ濃密で大胆な料理。前菜のツブ貝のエスカルゴバター焼きブルゴーニュ風1260円も推奨。

凡百のレストランを凌駕する分量に、優れて「仏蘭西」を感じさせるビストロ

今週の逸品



仔羊のクスクス・ロワイアル 3000円

サーモンの瞬間燻製温泉卵添え1260円かフオアグラ入りバテ・ド・カンパーニュ980円2500円が驚愕のクスクスを2人で分かち合うのも賢明な選択。フランス料理に抵抗感を示す向きを驚かす開眼させるに相応しき逸軒。テラス席はベット可。

【オー・コアン・ドウ・フー】東京都目黒区上目黒2-7-2 ☎03-6412-8212 営11:30~14:00(LO)、18:30~22:30(LO) 定休:水曜・第3火曜 茶煙

illustration by Hajime Anzai

